

## 日本の近現代史

# 第4回：明治維新と文明開化

島田茂生 (<http://jugyo-jh.com/nihonsi/>)

## はじめに 明治維新とは何か

19世紀後半の日本において江戸幕藩体制が崩壊、近代統一国家と明治新政権が形成された一連の政治的社会的変革

<背景>

①幕藩体制（江戸時代）の内部矛盾・国内的成熟

②開国＝列強・世界資本（「世界＝資本」）の外圧

<始期>①天保期 ②開国・開港 ③元治・慶応年間 ④寛政期

<終期>①廃藩置県 ②西南戦争 ③秩父事件 ④大日本憲法発布 ⑤日清戦争

## I、江戸時代とはどんな時代だったのか？

### (1) 「鎖国」「幕藩体制」「身分制度」などの「カベ」で分断された世界社会

①鎖国……世界＝資本主義から日本全体を切り離す「かべ」

②狭義の幕藩体制…幕府・「藩」など封建領主が全国を分割・統治する体制

③身分制度…集団(ムラ・身分)ごとに隔てられ、「分」をわきまえた生き方が求められる社会

・「士」…人びとをまもり、「仁政」を実現する「役」と、「年貢」を受け取る権利

・「百姓」…「年貢」など負担に応じる「役」と、「平和」「仁政」を満喫する権利

④「ムラ」の世界→協力と連帯責任で支配・年貢搾取と「平和」を実現する

村請(むらうけ)制…年貢を村単位で、村役人が責任を負って納める制度。

村の自治・相互扶助と、連帯責任制という二面性の基礎となる

### (2) 明治維新とは

「鎖国」「幕藩体制」「身分制度」などの「カベ」を壊し、均一な国民国家＝日本人を形成した変革

「グローバルスタンダード」の国家像＝「主権国家・国民国家」

①国境に区切られた一定の領域からなり、

②主権※を備えた国家で、

③その中に住む人びと（ネイション＝国民）が国民的一体性の意識（ナショナル・アイデンティティ）を共有している国家

## II、明治政府の成立

### (1) 維新の「引き金」としての「開国・開港」

①圧倒的な「国力の差」＝プライドを傷つけられた「屈辱感」と「復讐」意識

②植民地化への「危機」感＝日本近現代の中の「強迫神経症」的性格

③対抗措置としての挙国一致＝シンボルとしての（「破約攘夷」を主張する）天皇

⇒幕府はこうした役割を果たすことができるのか、信頼に足る存在なのか

## (2)幕府の権力を奪う

- ①挙国一致を実現する上での幕府の位置づけ…期待から、不信・さらには脅威に
- ②これを否定する薩長・急進派公家によるクーデタ（王政復古）の実施
- ③旧幕府の失策＝鳥羽伏見の戦い→戊辰戦争

天皇＝「官軍」につくか、「賊軍」（旧幕軍）につくか、諸藩に迫る

## (3)明確な設計図をもっていなかった指導者たち

- 新政府＝「公議政体派」が圧倒的多数を占め、急進派は少数（しかし軍事力＋天皇の権威を掌握）
- ・大まかな合意…①天皇の下に結集 ②「公議」を体現する国政樹立 ③身分を問わない人材登用
  - ④開国と条約改正交渉の実施 ⑤国政刷新 ⑥「日本軍」とくに海軍創設
  - ・漠然とした方向性…⑦「中央集権～日本の完全統一（「廃藩置県）」への移行

## (4)1868、4 五か条の誓文＝天皇が先頭に立って諸侯らと共に天地神明に誓う形式を取る。

- ①公議政体論が前提 ②欧米型近代国家をめざす（「陋習」をやぶり、智識を世界に）。

## (5)維新官僚の台頭＝新政府に次々ともちこまれる難題の対応を迫られる⇒試行錯誤の連続

内戦の継続、諸藩への対応、百姓一揆、尊攘派などによるテロ、新しい統治機構の立ち上げ  
財源確保、列強との対応（⇒1868「神戸事件」「堺事件」の発生）

⇒事態を把握でき、実行力のあるリーダー（薩長土肥＋幕臣）に「仕事＝権力」が集中

## (6)維新政権＝欧米型近代国家をめざし、「神武創業」の趣旨実現（「復古」と強弁

- ・外交＝「万国公法」体制の受容→「条約改正」の実現
- ・制度＝西洋型の法体系、経済・財政制度導入＝「地租改正」など
- ・軍備＝国民皆兵の近代的「国民軍」創出
- ・産業の「近代」化・インフラの整備＝「殖産興業」
- ・近代国家に適合する「国民」の創出
- ・文化＝欧米文化の輸入＝「文明開化」→伝統的・民衆的文化の否定
- ・天皇中心の国家体制の樹立

## Ⅲ、廃藩置県＝中央集権国家への道

(1)廃藩置県とは＝1871明治政府が中央集権化を図るため、すべての藩を廃して府県を置いたこと。

### (2)「藩」の解体の進行

戊辰戦争の結果⇒①致命的な財政危機、②藩の主体性低下（新政府の定める職制に統一）

1869版籍奉還＝①「藩」は地方機関・旧藩主も地方官僚に、②藩士との関係は消滅。

### (3)危機の深刻化

- ①百姓一揆の激化②武士などの抵抗③旧藩などの統治能力低下・財政破綻⇒④「廃藩」の申し出
- ⑤中央の指示不徹底⑥大藩（高知・和歌山など）の急進的改革⑦「公議政体論」志向の根強さ

### (4)「廃藩置県」

- ①知藩事（＝旧藩主）の解任⇒「華族」として身分と収入を保障
- ②県の設置→半年後には整理統合へ（302→72）
- ③県令の派遣＝中央政府に忠実な統治の実現
- ④政府への対抗軸が消滅⇒薩長土肥出身者による藩閥政治が進行。
- ⑤多くの士族（旧武士）は「会社と仕事」を失い、給料も削減される。（秩禄処分で全廃）

## Ⅳ、「四民平等」～「国民」の形成へ

### (1)身分制からの解放をめざす動き

### (2)「四民平等」＝身分制の「廃止」

- ①居住・職業・結婚など身分制を特徴づける制限廃止…苗字の許可、通婚許可、賤民解放令、戸籍

## ②「士族」の解体

- ・ 版籍奉還…「士族」に「秩禄」を給与（その根拠は？）

→1876 廃刀令、**秩禄処分**=秩禄を有償で廃止。特権は族称のみとなる？

## ②身分制度の再編……皇族・華族・士族・平民

### (3) 近代的軍隊の創設＝「国民軍」形成の基礎をつくる（⇒徴兵告諭72→徴兵令73に）

近代戦における軍隊＝指揮官の命令一下、集団として行動することが求められる。

実力主義＝門閥・家柄の原理をこえた軍事組織

→学校にも「国民」育成の役割がになわされる＝「体育」・行進訓練・各種行事

### (4) 身分制解消からみえる明治維新の限界

- ・ 維新の課題は、列強と対抗しうる近代国家の形成。自由や平等にはない
- ・ 「四民平等」は近代国家の形成（軍隊の形成、資本主義化など）の観点から実施される  
⇒目的からみて不要な、障害となる改革は実施しない。  
「自由・平等」「人権」などの課題は自由民権運動などで主張されるが
- ・ 結果としての「江戸時代」の残存  
「『家』観念」や男尊女卑など⇒旧民法などに組み込まれる（「わきまえる生き方」）  
士族エリート（身分⇒学校）が社会の中枢に
- ・ 「部落問題」の残存

## V、地租改正～百姓が農民へと変わっていく

### (1)地租改正とは

「明治政府が、財政的基礎確立のために施行した土地・租税制度改革」

- ①近代的土地所有制度の確立 ②租税制度の整備 ③財政制度の基礎 ④農民のあり方の変化

### (2)地租改正＝「村請制」の廃止⇒農民・農村のあり方の激変

- ・ 「村請制」が消滅。地租は個々の農民が支払う＝払えないのは「自己責任」！
- ・ 「ムラ」のしびりが弛緩⇒有力農民（村役人層など）による収益を求める利己的な対応も可能に
- ・ 地租の金納化＝収穫物の売買の必要→貨幣経済の浸透
- ・ 土地の自由売買＝土地の流動化
- ・ 共有地＝「入会地」の喪失も→再生産のサイクルが壊れる

### (3)近世農村の解体、松方デフレ（1884～）で決定的に

- ・ 一方で自作農民の土地喪失と、他方で大地主の出現（⇒「寄生地主制」の形成）
- ・ 都市への流出の流れ＝エリート化する流れと、都市貧民層への流れ

## VI、「文明開化」

### (1)文明開化＝一般的には政府の西洋近代文明の摂取による近代化政策から生じた社会風潮

「チョンマゲ頭を叩いてみれば困憊姑息の音がする、ザンギリ頭を叩いてみれば文明開化の音がする」

→前時代の古いものを野蛮未開と否定し、西洋文物を摂取することが社会進歩の道と見なす。

### (2)文明開化の風景 新潟県令・楠本正隆（元外務官僚）の場合

- ・ 一方でいきびしい風俗取締と、他方における人民の声をよく聞く良吏
- ・ 欧米人のまなざしを強く意識（文明と未開・野蛮、衛生と不潔）
- ・ 武士の農工商への視線、官僚の「選良意識」と地方・民衆への視線との同一化  
「政府＝文明」をすすめる「選良」が、「頑迷固陋」な地方・民衆を教導する＝「文明開化」  
→文明を上下関係で理解  
欧米・天皇⇒政府⇒官僚⇒地方・民衆（⇒国内植民地⇒中国・朝鮮）

### (3) 欧米化でない「文明開化」、「文明」とは「復古」のこと

- ①明治維新は天皇中心の正しいあり方に「復古」した変革として捉える。  
明治維新は天皇中心の正しい文化・政治が回復された「文明開化」  
⇒それまでの時代は「間違った文化・信仰のはびこる暗黒時代」=江戸時代を否定的に把握  
民間信仰＝「邪教淫祠」、五節句の廃止、「神」と神社の再編成と新設、太陽暦と皇紀採用
- ②神道国教化政策…すべての日本人を「天皇教」信者にするを目指す  
神仏分離令と廃仏毀釈、神祇官⇒教部省、キリスト教弾圧  
⇒教義の不十分さ、仏教教団の批判
- ③国家神道政策＝「神道は宗教ではなく日本の伝統、他の宗教とは矛盾しない」

### (4) 文明開化のなかの「国民」

- 明治の「日本人」は『文明国の国民』『天皇の赤子』という責任を負わされる。  
⇒都合のよい西洋化と天皇制への馴致が、「文明」と「未開」「野蛮」をふりわける基準に

### (5) 民衆にとっての「明治維新」「文明開化」

- ・これまでの『当たり前』がさまざまなレベルでくつがえされていく恐怖。  
⇒得体の知れないことが進行しているとの不安と恐怖＝「新政府は異人が支配している」  
農民一揆（騒擾）の激発と過激化

## VII、天皇像の変化と明治維新

### (1) 天皇像の変化～不可視の存在から可視化される存在へ

- 宮中からでたこともなく、誰も見ることでできない存在（衣冠束帯）  
⇒軍服・騎馬姿で軍隊を率い、欧米人に応接し、洋食を食べ文明を推進する近代的君主へ

### (2) 明治維新とは

<原動力>

- ①国内的成熟⇒新たな社会を必要としていた日本。
  - ②日本の参加を求める世界＝資本主義の潮流
- <その結果>
- ①江戸時代のさまざまなルール・システムの崩壊・解体  
⇒鎖国・幕藩体制・身分制度・村請制・相互扶助の社会
  - ②「世界標準(グローバルスタンダード)」の強要・導入  
⇒資本主義・主権国家体制・国民国家・「自由」の強要（自己責任と競争）
  - ③伝統的な日本のあり方と「世界標準」の混合・融合  
⇒近代天皇制・国家神道・明治憲法・寄地主制・財閥
  - ④加速する「上からの近代化」とまきこまれる民衆  
⇒文明開化・藩閥政治・エリート主義と官尊民卑・「イエ」

<参考文献>

- 井上勝生『幕末・維新』『開国と幕末変革』 中村哲『明治維新』 石井寛治『開国と明治維新』
- 青山忠正『明治維新』 渡辺京二『逝きし世の面影』 鬼頭宏『文明としての江戸システム』
- 安丸良夫『安丸良夫集』『日本の近代化と民衆思想』『近代天皇像の形成』
- 牧原憲夫『牧原憲夫著作集』『客分と国民のあいだ』『民権と憲法』『文明国をめざして』
- 奈良勝治『明治維新をとらえ直す』 三谷 博『維新史再考』
- 『図説日本史通覧』『詳説日本史図録』『新詳日本史』